



堀岡 敏喜 議員

通学路の街灯設置にソーラーライトを利用してはどうか

問

街灯のない通学路対策について、次の事項を尋ねる。
 (1) 多数の市民より、市内の通学路で街灯がなく、犯罪の温床にもなりかねないと指摘を受けた個所が多々ある。
 一例を挙げれば大藤小学



▶大藤小学校周辺の通学路

校区の鎌島住宅地の通学路は、人けもなく、日没後は大人でも不安になる。

このような危険個所に、地域の意見を聞きながら市が調査の上、街灯設置を早急に検討できないか。
 (2) 家庭用の太陽光電池によるソーラーライトを利用してはどうか。

費用対効果も含めて研究していきたい

答 教育部次長

(1) 小・中学校で日没時刻を考え、明るいうちに帰宅できる下校時刻を決めている。今後とも各学校に対し、通学路の安全を再点検するよう強く指導をしていきたい。
 (2) 費用対効果も含めてよく研究していきたい。

防犯隊グッズを工夫し参加意欲の向上を

問

市では「きんちゃんパトロール隊」が結成されており、市民の地域防犯交通安全への尽力に感謝している。

しかし、登録でもらえる腕章、帽子等はデザインが古く、量販店でも手に入り悪用される恐れもある。
 もっとオリジナリティーのあるもの、例えばバンダナ等に変更すれば参加意欲も向上すると思うがどうか。

現在のところ変更する考えはない

答 防災安全課長

偽造のあるなしにかかわらず、目的が達成され、犯罪が少しでも減少すればと考えており、現在のところ変更する考えはない。
 ただ、今後検討する必要があると認識している。

安全対策としてバス停留所の視認性を高めよ

問

巡回福祉バスの停留所について、次の事項を尋ねる。
 (1) 狭い歩道に設置された個所は、バスを待つときに危険である。ドライバーが視認しやすい色や形に変更できないか。
 (2) 日よけ、雨よけや腰掛けがつくれないか。

今後の検討課題としたい

答 防災安全課長

(1) 今後の検討課題としたい。
 (2) 屋根のある公共施設を除き、ほとんどが歩道もないのが現状である。通行の妨げや交通事故の原因になるので、現在は考えていない。
 ただし、調査してスペースのあるところは、今後の研究課題としたい。